

領域の授業改善点

※各教科等の観点に基づき、顕著なものを記載

領域	学年	課 題	工夫・改善点
道徳	1年	<p>明朗で素直な生徒が多い。また、基本的な生活習慣も身につけており、規範意識も高い。反面、やや周囲に対しての気配りに欠ける生徒がいるため、「思いやりの心」を育てることが課題である。</p>	<p>読み物資料及びエンカウンターを中心に道徳の時間を核として、様々な場面で道徳的実践力を養う。生徒相互の意見交換を通して生徒自身に考えさせる指導をする。</p>
道徳	2年	<p>個々の個性が生き、集団が向上していくためには物事を正しく判断し、様々な能力、考えを持つ友達との協力関係を築く必要がある。</p>	<p>道徳のそれぞれのねらいを達成するためには、毎時間で学級集団の向上を意識していくこと。特に、感謝の心、思いやり、相手の立場を考える態度をどんな場面でも指導していくことを実践する。</p>
道徳	3年	<p>最上級生としての自覚と誇りは、行事や日々の生活を通じて次第に身に付きつつある。一部の規範意識にやや欠ける生徒への支援がなお課題である。また自己表現の苦手な生徒もおり、心のコミュニケーションが必要である。</p>	<p>道徳の授業では、自己の人生を切り開いていく上で大切なものを見極める目を養うことを目指す。意見交換・討論・助言等を基本とし、多くの考え方に触れ自己の考えを構築させる。</p>
特活	1年	<p>複数の小学校からの混成学級として始まる学年であるため、中学生としての生活や学習に戸惑いをもつ生徒、学校における友人関係の中で適応しきれない生徒もやや見受けられる。</p>	<p>学級活動や学校行事に積極的に参加させる取り組みを通じて、友人関係の構築や学校生活のリズムを身につけさせ、楽しく充実した生活を送ることができるよう援助する。</p>
特活	2年	<p>学級活動・生徒会活動・学校行事において、ほとんどの生徒は中堅学年としての自覚を持って活動をしている。しかし、意欲的に活動できない生徒もおり、様々な場の設定に心がけ、ひとり一人の力を発揮させていきたい。</p>	<p>学校での諸活動や行事に積極的に取り組む経験を通し、学級や学年、学校への所属意識を高め、自己の責任と他者への協力する態度を育成出来るよう援助していく。</p>
特活	3年	<p>学級活動や生徒会活動において、大部分の生徒は「最上級生としての自覚」を持っているが、まだ自覚が不十分な生徒もいる。学校行事へは、体育祭や音楽祭など学級の力を結集し積極的に参加している。</p>	<p>様々な学校行事を通して、他者との積極的な関わりを持たせ、集団の意識を高めさせる。そして、その意識を卒業まで継続させるよう指導する。</p>
総合	1年	<p>身近な地域に関心を持ち、グループ内で意見を出し合いながら和気あいあいと調べ学習を行っている。役割分担や協力的体制も整っている。ただし、中には消極的な取り組みや指示待ちといった生徒もみられる。</p>	<p>生徒一人ひとりの活動状況をつかみ、支援する。グループとして発表を行うときは、それぞれの活動の成果が形に表れて満足感・達成感を得られるよう導いていく。</p>
総合	2年	<p>一人で学習を進めることが多いが、友達と相談しながら学習することで、学習に幅と深まりを期待できるばかりか、社会との接点を持つことができる。このような場面をより積極的に設定したい。</p>	<p>発表に向けて、班や学級で相談する場面が多くなる。相談する内容を明確にし、個々の意見を引き出しやすい環境を整え、数々の課題を与え解決させたい。</p>

領域の授業改善点

※各教科等の観点に基づき、顕著なものを記載

領域	学年	課 題	工夫・改善点
総合	3年	1・2年次に培った様々な知識やスキル、情報処理能力を活用して、自らの課題を主体的に解決できる実践力を身につけさせたい。また、自己肯定感や基本的信頼感を培い、進路の主体的な選択につなげたい。	課題解決学習の発表形態として、紙面でのまとめ、分科会での個人発表をする。プレゼンテーションソフトを活用し、より効果的な発表の方法を身に付けさせる。様々な実践の中で、生徒が主体的に自己の進路や、生き方を考えていけるように適切な指導・助言をしていく。